

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 小牧 幸代	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>①調査・研究</p> <p>2014年度は、大学共同利用機関法人人間文化研究機構地域研究推進事業「現代インド地域研究」国立民族学博物館拠点の海外調査費等により「現代インドの娯楽産業・観光産業における〈商品〉としての宗教に関する現地調査」を実施した。具体的には、経済発展を遂げたインドで、1990年代後半以降、急増しはじめた大規模テーマパークのうち、アドラブズ・イマジカ、ラーモージー・フィルム・シティ、キングダム・オブ・ドリームズ、エッセル・ワールドおよびウォーター・キングダム、キッザニアに焦点をあて、各種アトラクションに見られる宗教と民族の表象のあり方に注目しつつ、事例と資料の収集を試みた。その結果、民族の表象については、他民族の場合には漠然としたイメージが優先され、時には逸脱したイメージの展示や演出さえ許されるのに対して、自民族の場合には細部まで正確に美しく再現しようとする努力が見られること、さらに宗教の表象に関しては、イメージの優越や作り込みの程度とは無関係に、開園時期の社会的・政治的な背景が大きく影響していると推測できることが分かった。</p> <p>他方、高崎経済大学特別研究助成課題研究「預言者尊崇的イスラームの現代的展開とバレーリー派の改革思想・運動に関する研究」については、インドのハイデラバードとムンバイ、さらに北欧ノルウェーにおいて、同派のモスクを訪問し、モスクの管理者を通じて第一級の資料と情報を収集した。同時に、バレーリー派が関与している宗教グッズの製作・販売・流通の現場を視察した。インド・パキスタンとノルウェーを比較すると、宗教の物質化は、北欧では進行していない様子が明らかとなり、他のヨーロッパ諸国と比較しても、ノルウェーの現状は非常に興味深かった。</p> <p>さらに、ノルウェーでは、ムスリム女性移民を対象とした「暴力」からの救済支援活動をおこなう団体が主催する勉強会への参加や、移民女性たちへのインタビュー調査などを通じて、移民をめぐる国家の政策と民間の支援と日常生活の中の暴力の関係の一部を解明することができた(科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金(基盤研究(B))「地中海から西・南アジア地域の人々に関わる「名誉に基づく暴力」の文化人類学的研究」研究代表者：京都大学人文科学研究所教授・田中雅一)。</p> <p>②論文・著書・エッセイ</p> <p>◆小牧幸代「拓け！水産物のハラール市場・第5回・南アジアの魚食文化と<魚食判断>の2つの基準」『月刊養殖ビジネス』2014年9月、pp.62-65.</p> <p>◆小牧幸代「深窓の佳人から女性議員へ：ムスリム女性の選挙活動」栗屋利江編『ジェンダー・ハンドブック』近刊。</p> <p>③学会発表等</p> <p>◆小牧幸代「現代インドのテーマパークにおける商品としての宗教：アドラブズ・イマジカの事例を中心に」日本南アジア学会第27回全国大会、大東文化大学東松山キャンパス、2014年9月27-28日。</p>	
2 その他の事項	

特になし

3 次年度以降の計画・抱負

2015年度は、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））「インド・イスラーム表象の観光化と芸術化：テーマパークとモダンアートを中心に」（研究代表者：小牧幸代）の研究期間の1年目となる。また、上記研究課題「地中海から西・南アジア地域の人々に関わる〈名誉に基づく暴力〉の文化人類学的研究」の研究期間3年目（＝最終年度）でもある。したがって、インド、パキスタン、ノルウェーを中心に、ムスリム社会の宗教、娯楽、観光、芸術、女性、暴力に関する現地調査を継続するとともに、収集蓄積されたデータの整理・分析をおこない、研究発表と論文執筆に取り組む。

その一方で、研究成果を、つねに日本社会の類似の現象や出来事と関連づけて考察し、最新の世界情勢（特にイスラームを中心とした宗教と政治・経済の問題）や異文化理解・多文化主義のあり方の現状を、大学教育の現場で、専門知識をもたない学生にも分かりやすく解説する。地方公務員やインバウンド観光業界への就職を希望する学生にとっても有益な講義・演習となるよう工夫を凝らす（具体的には、写真や現物を見せたり触らせたり、エピソードを紹介したりすることで異文化を疑似体験させる）ことで、国際的な視野と知識を備えて地域社会で活躍する人材の育成に貢献したい。